

日高の調教場では、例年より早く屋外馬場の供用が始まり、4月1日には699頭が利用し、1日の利用頭数の最高記録を更新しました。6月には、屋内トラック馬場のクッション砂の劣化に伴い、砂の入れ替えを行いました。今後7~9月にかけて、1200m直線砂馬場は火山灰路盤から砕砂路盤への改修のため全面クローズとなります。また同じ時期に、利用者の方の要望を受け、南地区から屋内直線馬場に通じる馬道の改修も行います。工事期間中、利用者の方々にはご迷惑をおかけいたします。

第26期研修生19名(うち女性5名)が4月15日に入講しました。最初は、騎乗訓練用シミュレーター等も活用し、騎乗経験の有無や騎乗レベルごとに騎乗訓練をスタート。現在は、基本的な騎乗スタイルやスピードコントロールも身につけ、全員揃ってBTC調教場内等の走路騎乗訓練に励んでおります。(Y.H.)

桜の開花とともに混戦模様の桜花賞さらには皐月賞の後は、ダービーと続くグレードレースが無事に終わりました。JRA育成馬のブリーズアップセールが4月28日(月)中山競馬場で開催され、今回の売却頭数は昨年とほぼ同数の59頭、売却率もほぼ同率の83.1%で、売却総額は世相反映のせいかな昨年より減少したものの盛況のうちに閉幕しました。

「たづな」欄は、社団法人日本調教師会の中村均会長に、世界の頂点を見据えた競馬を考えたときのことを語っていただきました。既存施設に甘んずることなく新しい画期的な調教方法と飼養管理法の開発への挑戦という前進的発想に強い共感を覚えました。

「科学の箱馬車」では、非常に完治しにくい競走馬の屈腱炎について、腱組織を分子生物学的観点から長年研究してこられた東京農工大学の新井克彦教授に、競走馬の腱組織の特性について分かり易く解説いただきました。屈腱炎の発症予防に役立てて頂ければ幸いです。

「調査・研究」欄は、JRA美浦トレーニングセンター競走馬診療所の福田健太郎氏に、競走馬の骨や腱靭帯疾患の治療法として良好な結果が得られ、最近注目されているショックウェーブ療法について紹介していただきました。競走馬の臨床の場で広く利用され、運動器疾患の減少が図られることを切望します。(T.Y.)